569. 大阪大学病院における放射線情報システム (RIS) 第2報 オーダーエントリーと予約業務について

Radiology Information System in Osaka University Hospital (the 2nd report)
Order entry and scheduling system

大阪大学医学部附属病院 放射線部 ○笹垣三千宏 祐延良治 段床嘉晴 森 嘉信

(Michihiro Sasagaki) (Yoshiharu Sukenobu) (Yoshiharu Dantoko) (Yoshinobu Mori)

大阪大学医学部医用工学講座 稲邑清也

(Kiyonari Inamura)

日本電気 (株) C & C 医療システム事業部 竹田 功

(Isao Takeda)

【目的】 近年の放射線情報の多様化、並びに患者へのサービス向上の問題に対応すべく、当院は病院移転を機に放射線情報システムを構築した。本報では病院情報システムHISにおけるオーダー入力、RISへのオーダー登録、各検査室へのオーダー自動振り分け機構、及び予約業務について報告する。

【方法】 放射線オーダーは各科外来、病棟に配置されているHIS端末より入力される。入力方法は病名、検査目的、詳細指示情報をワープロ入力形式で、検査種、部位、方向については選択入力方式とした。オーダー情報は光ファイバー-LOOP LANを介して放射線部RISサーバEWS4800に登録される。検査の際には受付業務により、オーダー情報が各検査室の端末に転送される。この機構はモダリティー、年齢、撮影部位、入院外来区分、患者状態によりシステム内部で自動化した。(Fig.1)

一般撮影については外来患者は予約なしで、入院患者については検査日指定のオーダー入力方式とした。特殊検査については外来入院共に予約方式とし、モダリティー別にオープン予約とクローズ予約、及び緊急枠を設定した。

【結果】 オーダーする医師にとって依頼内容のコピー機能、マウスによる選択入力方式の採用により短時間にオーダーが入力可能となり有用となったが、我々にとっては業務量が増加した。(Fig.2)

予約業務については主治医が患者を前に診察室で検査日を決定できる(オープン予約、Fig.3)、クローズ予約に関しては放射線部検査担当医師が放射線部のどこでも予約業務ができるというメリットがあった。(Fig.4)

問題点として他の検査との整合性がシステム上ではチェックできていない事、患者の入院外来区分の変更があった時、その情報が検査室に伝わらない事が挙げられる。システムのトラブルとしてはメンテナンスの翌日にHISとRISのオンライン接続が切れオーダーが取り込めない、実績がHISに帰らないという障害が問題になっている。

【考察】 今後、一般撮影の科別セットの開発、障害発生時の復旧対策の充実、オーダー並びに実績のデータベースの有効な活用方法の検討を進めたい。

Fig.1 受付業務 自動振り分け機構

Fig.2 業務量の変化

Fig.3 オープン予約入力画面 (HIS)

Fig.4 スケジューリング (RIS)